

学校評価アンケート 2022 考察

今年度は、児童・保護者へ家庭面についてのアンケートも追加した。家庭での児童の生活の様子と保護者が捉える児童の家庭での様子を比較しながら、学校と家庭が協力して児童のよりよい成長へとつなげていけるよう活用していきたい。

1. 児童・保護者・教職員の結果を比較して…

- 児童・保護者・教職員、三者とも学校の取組や状態について肯定的に見ている意見（「はい」「どちらかというとはい」）という回答）を選択している割合が8割以上と多く、否定的に見ている意見（「どちらかというといいえ」「いいえ」という回答）は少ない。
- 昨年と同様に保護者が「よくわからない」と答える割合が1割強の項目もあるが、若干改善された項目も増えている。

2. アンケートから

(ア)児童アンケートについて

- ① 2022年度もこれまで同様「はい」「どちらかというとはい」の順に割合が多く、両者で全体の8～9割程度とおおむね児童は、肯定的に評価している。
- ② 昨年度同様少数ではあるが、否定的な回答や「よくわからない」と回答している児童がいることについては、十分留意しなければならない。

(イ)保護者アンケートについて

- ① 「はい」「どちらかというとはい」の両者で全体の8割程度とおおむね保護者も学校の取組を肯定的に評価している。
- ② 「よくわからない」と回答した保護者の割合については改善傾向にあるものもあれば、昨年に引き続き1割から2割程度のものもある。
- ③ 自由記述欄には、学校に対して肯定的な意見もいただいたが、コロナ禍における児童のコミュニケーションの部分で不安を感じる意見も少数あった。

(ウ)教職員アンケートについて

- ① 昨年度同様「はい」「どちらかというとはい」の両者で全体の9割以上と教職員も肯定的に捉えている。
- ② 教職員だけの回答となる『Ⅱ.学校経営に関する項目』では、安全指導や安全管理についても、昨年度同様、肯定的に捉えている。

(ア)(イ)(ウ)の結果から

児童・保護者・教職員とも「はい」「どちらかというとはい」の割合が多く、本校の取組は児童にも保護者にも肯定的に捉えられ、教職員の取組がおおむね理解されていると考えられる。

しかし、細かく見ていくと児童の評価結果では、「Ⅰ授業はよくわかる。」「Ⅱ授業では学習のルールを守っている。」の項目では昨年度と比べ「どちらかというといいえ」「いいえ」「よくわからない」

の回答が1割程度に増えている。改めて教職員間でしっかりと共通理解の上、児童への指導を見直していかなければならない。

また、昨年度同様保護者の「よくわからない」という回答が1割以上の項目は、以下のとおりである。

「2.先生は、図や写真、実物などを使うなど、指導法を工夫してくれている。」

「5.子どもは、とんぼの時間や生活科の時間を意欲的に学習している。」

「6.各学年で人権教育に取り組んでいる。」

「7.生活面でどの先生も同じように指導してくれている。」

「10.子どもは、あすなる集会や道徳の時間に人と人の関わり方について学習できている。」

となっている。このうち、6・7については昨年度よりも少し改善されているものの「よくわからない」という回答が1割以上は変わらない。

「8.先生は、子どもの話をよく聞いてくれる。」

「11.子どもは、授業では学習のルールを守っている。」

という項目については、昨年度に比べ、「よくわからない」と回答している割合は減ったが、「どちらかといえばいいえ」「いいえ」と回答している割合は増えた。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止において感染対策を行いながらできる限りの行事を実施した。しかし、家庭訪問や学級懇談会などは実施できず、まだまだ児童の様子を共有したり教職員と直接話したりする機会が少なく児童の様子を十分お伝えしていくのは難しいが、教職員間で十分に協議し対応していきたい。

家庭面でのアンケート結果からは、「15 毎日、早寝早起きをしている。」の項目において、児童・保護者とも「どちらかといえばいいえ」「いいえ」の回答が3割程度あった。「18 携帯電話やタブレット等でインターネットを利用している。」の項目においては、「毎日」と回答している児童が3割弱に対して保護者は7割回答している。ネット社会におけるルールや家庭での過ごし方についても学校と家庭との連携を図りながら児童を見守っていきたい。

自由記述においては、学校の取組にご理解をいただいたり感謝の言葉をいただいたりすることができた。一方、コロナ禍における児童のコミュニケーションの部分で不安を感じるご意見もいただいた。今後も感染症対策を実施しながら、児童のよりよい成長につなげていける学校行事や学習活動の実施を模索していきたい。